

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	平成30年度第1回高松市生涯学習センター等運営協議会
開 催 日 時	平成30年6月1日（金）午後2時
開 催 場 所	高松市生涯学習センター2階 小研修室
議 題	(1) 平成29年度高松市生涯学習センター等の事業実績について (2) 平成30年度高松市生涯学習センター等の事業計画について
公 開 の 区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	8人
	武重会長、上原委員、阿部委員、岩本委員、藤井委員、川上委員、徳増委員 豊田委員
傍 聴 者	0人
担当課及び連絡先	生涯学習課 生涯学習センター 087-811-6222

協議経過及び協議結果

《次第》

- 1 開会
- 2 教育局長あいさつ
- 3 会長及び副会長の互選について
- 4 会長あいさつ
- 5 議事
 - (1) 平成29年度高松市生涯学習センター等の事業実績について
 - (2) 平成30年度高松市生涯学習センター等の事業計画について

※事務局より配布資料に基づき説明後、議事単位で協議・意見交換
- 6 報告事項
 - (1) 平成29年度まなびCANアンケートの結果について
 - (2) 多目的ホール天井改修工事について
- 7 その他
- 8 閉会

----- 協議経過及び協議結果 -----

議事（1）平成29年度高松市生涯学習センター等の事業実績について

事務局から、平成29年度高松市生涯学習センター等の事業実績とその成果について、説明を行った。

（委員）

平成29年度の事業実績を検証しなければならない。生涯学習センターやコミュニティセンターで様々な事業を行っているが、どれほど市民が気付いているのか。コミュニティセン

ターの事業は地域格差があり、底辺を引き上げる必要がある。15周年記念事業でやったように予算をあまり使わずに、知恵を出し工夫が必要と思う。本市の抱えている問題を、次世代のために、ここから発信してほしい。

(事務局)

29年度に実施した15周年記念事業は、予算的に厳しい状況で、これまでの人脈を使い、工夫を重ねて何とか開催できた。昨年度は、関係する団体や本市各課、企業とも連携して、事業に取り組んだ。事業の新たな検証方法については、ここで返答できないが、研究したい。

(会長)

コミュニティセンターの事業実績をみると、29年度は主催事業の講座回数が減っているが、その理由は何か。

(事務局)

29年度コミュニティセンターの主催事業の講座回数が減っているのは、コミュニティセンターで防災などの事業や役割が年々増えているため、相対的に生涯学習に係る事業が減っているのが現状である。

各コミュニティセンターの職員を生涯学習推進員に委嘱して、生涯学習を推進しているものの、各地域の実情に合わせて、講座を合同で開催できる方法に見直したこともあり、総数では主催事業の講座回数はH28年度と比べて減ってきている。

(委員)

各地域のコミュニティセンター講座の内容に変わりがない。生涯学習センターの方針がうまく伝わっていないのではないかと思う。一部のコミュニティセンターでは講座開催が地域の生きがいようになって、コミュニティの再生につながっているところもあるが、他の問題にかかりきりになり、生涯学習が重要視されていない地域もある。講座回数ではなくて質の向上を目指すべきである。また、生涯学習カレッジの高松市民大学事業では、地元の先生に講師をやってほしい。

(事務局)

生涯学習カレッジの高松市民大学事業については、毎回その内容によって、講師を選んだり、これまで生涯学習センターで開催しているので、高松大学の学生など若い世代へのPRや交流に役立っている面がある。

(会長)

本当に実施事業を評価するなら、実施機関の生涯学習センターではなく、別の専門的な機関が事業をデータ化して、評価しなければいけないと思うので、市が主体的に事業評価することは難しいと思う。

その際には事業カリキュラムがどういうコンセプトでできているかということも必要なので、そういうことが出来るような体制も検討するよう要望する。それと議事資料6ページに記載のコミュニティセンター講座、家庭教育学級の開催回数が減っている理由は何か。

(事務局)

家庭教育学級の参加人員が10,669人減った理由は、28年度と比べ、29年度では、家庭教育学級の講座の実施内容が大きく変わっているためである。28年度は小学校、幼稚園、保育所で事業を実施していたが、29年度では私立を含めた幼稚園、保育所と連携しながら、小学校でのみ事業を実施したので、参加人員が少なくなった。また、コミュニティセンター講座は、各地域の実情に合わせて、他の講座と合同開催できるように見直

し、30年度についても、必須講座の開催回数を年間83回から52回へ変更し、52回から72回まで実施回数を選択できるように見直している。

また、開催講座のレベルアップのため、コミュニティセンター職員に生涯学習推進員を委嘱し、年間10回程度、養成講座も実施している。30年度は附属小学校が増えるため、29年度比較では良い結果が出ることを期待している。

(委員)

生涯学習センターの募集用チラシ作成や受付業務を減らして、講座のPRは電子データの配信にすれば良いと思う。また、講座はシリーズもの、継続した内容のものが今後必要ではないか。

(事務局)

電子データによる情報発信でいうと、生涯学習センターから個人のパソコンや携帯電話などに、メールで講座案内を配信している。双方向のやり取りが可能で、講座を受講した感想や要望などが返送され、現在約600人に情報発信している。講座の内容については意見を取り入れて充実させていきたい。

(委員)

生涯学習センターでは同じ人が同じような講座を受けているのでは。受付時にそういうチェックはしているか。

(事務局)

講座受付時に、そのようなチェックは行っていない。以前、同じような講座を受けたので、今回の受講はだめということは言えないと考えている。様々な講座を受講された方、継続的に生涯学習センターを利用された方を把握するのは有効だと思う。

議事(2) 平成30年度高松市生涯学習センター等の事業計画について

事務局から、平成30年度高松市生涯学習センター等の事業計画について、説明を行った。

(会長)

生涯学習センターの30年度事業計画の中で、特に力を入れているところは何か。

(事務局)

配布している資料(2)生涯学習カレッジの中に、「盆栽ワークショップ」という講座があり、これは香川大学の盆栽ガールズプロジェクトによるもので、新たなニーズを掘り起こす内容である。また、高齢者を対象としたものでは、「初めて触るスマートフォン体験教室」など現代的課題を取り扱ったもの、夕方から夜間の時間帯でOL、主婦層を対象にした「初めてのピラティス体験」など時間・内容を工夫した講座を新規に開設している。

(委員)

これからの生涯学習センターは、民間では採算が合わないような講座や話題性のある時代のトレンドを先取りするような講座も必要では。

(事務局)

生涯学習は、時代とともに変わっていくので望まれているものも数多くあると思う。生涯学習の中で、市民にとって必要なもの、受けていただきたい講座を整理しながら事業を行っていききたい。拠点施設として、生涯学習センターで実施する必要な事業についても、同じく精査し、事業を実施したい。

生涯学習の範囲は幅広く、生涯学習担当課だけでは完結しない。機会を捉えて、色々な

機関、団体などと連携しながら、事業を推進する必要がある。

(事務局)

委員の皆様から貴重な意見をいただいた。生涯学習センターにおけるPR方法、受付方法などについて、課題があると考えており、地域のコミュニティセンターや他の施設との連携も重要である。結果的には、来館者数など28年度に比べて29年度は、数字は下がっている部分もあるが、多様化するニーズに対応して職員も工夫して考えながら、生涯学習事業に取り組んでいるので、皆様の御助言をぜひいただきたい。また、この場に限らず、生涯学習センターや本庁では、いつでも皆様方の意見をお聞きかせたいと思っている。

報告事項 (1) 平成29年度まなびCANアンケートの結果について

(2) 多目的ホール天井改修工事について

事務局から、報告事項(1)(2)について、説明を行った。

(委員)

次回の運営委員会の開催時期はいつか。

(事務局)

今年度の運営委員会は、年間2回を予定しており、次回は10月以降で、30年度前半の事業実績、後半の事業計画などの内容で予定している。

(委員)

貸館で使用する場合の使用目的は分かるのか。それが分かれば、いろいろな事業を行う上で有効ではないか。

(会長)

そうですね。次回の運営協議会に貸館の使用目的が入った一覧表を提出してほしい。

(事務局)

貸館の使用目的が入った一覧表を次回の運営協議会に提出したい。

(会長)

他の委員の方で意見はないか。

(委員)

生涯学習センターの資料を見ると、10代、20代の方の利用はとても少ない。若い世代でも子どもがいれば、キッズ向けの講座を利用できるが、そうでない人は利用しにくいと思う。最近、高松市に住みだしたので、自分の地域のコミュニティセンターも分からないし、広報紙も届かない。生涯学習のPRも届いていない世帯も多いと感じた。

(委員)

生涯学習センターの市民ギャラリーの利用は少ないが、美術館のギャラリーは良く利用している。使用料金が同じような気がするので、瓦町フラッグ、サンポートなどギャラリーの使用料金を施設ごとに変えれば良いのではと思う。

(事務局)

生涯学習センターのギャラリーは1日3,990円である。立地条件や施設の性格などにより、利用料金は決まるが、公共性も高い施設なので、他の施設の使用料金も参考にするため、建設時期により、似通ってくることはあると思う。

(会長)

生涯学習とは何かということを考えなければならない。生涯教育ならば先生が主人公であるが、生涯学習ならば高松の市民が主人公ということになり、市民の学習意欲を高める施策が必要である。生涯学習と学校教育とは重なりながら違っており、講座対象は高齢者世代だけでなく、子ども世代でもOKである。行政側はもう少しやわらかく考えてほしいし、もっと講座のテーマを広げられると思う。次年度の事業を計画段階で示してもらえば、運営協議会で提案できることも多いのではと思う。

それでは予定の時間になったので、閉会したい。